

## 平成28年度自己評価シート(年度末評価)

校番	8	学校名	広島県立三原東高等学校	校長氏名	波多野 徹	<input checked="" type="checkbox"/> 定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	---	-----	-------------	------	-------	---	---

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
1 確かな授業力と組織的な指導により、生徒の学力向上と進路希望の実現を達成する。							
受動的な学びから主体的・能動的な学びへ変革し、生徒の学習意欲及び学力の向上を図る。	広島県学力調査の平均通過率	47%	50%	49.1%	B	目標値にやや届かなかったが、昨年度の通過率を上回った。また、1年生は50.1%と目標を達成した。2年生は目標値を下回ったが、昨年の1年生よりも数値が上がった。	教務 各教科
	履修した単位をすべて修得した生徒の割合	90.9%	95%	95.8%	A	授業改善や単位修得に向けた補充、課題指導等、丁寧な指導を行い、目標値を達成できた。	教務 各教科
生徒が高いキャリア意識を持ち、進路目標を実現している。	進路希望(3年2回)の達成率	89%	95%	93%	B	担任会で綿密に生徒希望を把握し、丁寧に迅速に指導できた。進路未定者9名がいる。(124/133)	進路 3学年
	進路希望調査の進路希望決定率	85%	90%	84%	B	・1月調査の進路決定率79%(100/126)である。4月の未決定者のうち6名が進路を決めたが、26名が未定のままである。(1学年) ・1月調査の進路決定率88%(126/143)である。4月の未決定者32名から17名と減少。4年制大学が34名から44名へ増加。(2学年)	進路 1・2 学年

### 【評価結果の分析】

- (教 務) ・「主体的・能動的な学びを促す授業づくり」をテーマに、公開研究授業や互見授業を行い、教員の指導力向上を図った。
- ・広島県学力調査で「授業が分かる」と答えた生徒が、国語では、77.7%と依然として高く、数学では45.1%から55.3%、英語では45.4%から51.6%にそれぞれ大幅に改善された。授業改善により、主体的・能動的な学びを進めた結果、平均通過率も上昇したものとする。
  - ・「国語、数学、英語の勉強が好き」と答えた生徒が、それぞれ50.4%、36.1%、34.2%である。学ぶことが楽しいという実感を持てるように授業を作っていくことが今後の課題である。
- (進路指導) ・就職については求人倍率が昨年に続き好調なため、希望者全員が内定した。担任会でJST(ジョブサポートティーチャー)によるきめ細かな担任へのアドバイスや、生徒への面接及び求人票の提示により、生徒も意欲的に採用試験に取り組んだ。
- ・国立大学については希望する生徒がいなかった。1学年から目標にさせる必要がある。
  - ・進路希望達成率は、最後まで進路を決められない生徒が9名いた。他の生徒については、担任会において生徒の希望を把握し、指定校推薦の利用などより積極的な進路指導ができた。生徒の進路希望変更にも迅速に対応できた。
- (1 学 年) ・「総合的な学習の時間」の「職業・学問研究」「企業見学(JFE・エフピコ)」「上級生のインターンシップ発表会視聴」「課題研究(魅力的な三原市にするには)」等の活動及び担任面接、三者懇談会等を通して、進路意識を高めることができた。進路希望調査での未定者は4月32名から1月25名へと減少はしたが、目標値に到達できなかった。

- (2 学 年) ・三者懇談会などで保護者と連携をとりつつ、夏休みの大学訪問やインターンシップ、看護体験への取り組みを指導の契機とし、担任面接などを通して、生徒たちは進路意識を高めることができた。
- (3 学 年) ・2学年の段階で大学・専門学校を希望していた生徒は、早い時期から積極的に進路説明会やオープンキャンパスに参加し、AO入試・推薦入試などを利用して進路実現をすることができた。

#### 【今後の改善方策】

- (教 務) ・生徒の学力・学ぶ意欲を向上させるため、「アクティブラーニング」を取り入れた授業について研究テーマを検討し、1年を通して全教員で主体的・能動的な授業に取り組む。
  - ・基礎学力の向上に向け、教育課程の編成を含め、3年間での学習内容を再検討する。
  - ・3年間を見通した「総合的な学習の時間」の計画、各教科と連携した指導計画を作成する。
- (進路指導) ・1学年で就職希望者が20名いる。普通科の本校として資格取得に課題があるので、本校独自のキャリア教育の充実も必要である。今年も新規の企業から内定を得ているので、引き続き企業訪問・求人開拓で企業との連携を密にし、求人を増やす取り組みをする。
  - ・一般教養試験を課す企業が増えているので、朝学習でも基礎学力をつけさせる。
  - ・進路決定が早いほど、希望の進路実現に繋がっている。1・2学年では面接指導と進路情報などガイダンスを充実させ、校外のガイダンスも利用しながら、高い進路目標にチャレンジする生徒を増やす。3学年は、就職・AO・推薦入試の対策を充実する。
  - ・国公立大学を目指す生徒を復活させる。早期から学部学科の内容や入試について調べさせ、オープンキャンパスや公開講座などへの参加を促し、高い目標へ向かって意欲を高めていく。また、同時に推薦入試の対策として小論文指導・面接指導を計画的に実施する。
- (1 学 年) ・2月に予定されている「進路ガイダンス」、さらには次年度でのインターンシップや看護体験への参加、オープンキャンパスへの参加、大学訪問等を通じて、さらに進路意識を具体的に深めていく予定である。「総合的な学習の時間」での様々な活動や面接指導・三者懇談会等を通じて、未定者への取り組みを行っていく。
- (2 学 年) ・進路決定をする時期を目前に控え、3月の進路別ガイダンス・事前調査で生徒の進路目標を具体化させるよう指導する。進路実現に向かう意識を向上させ、3学年での指導を円滑に進めるために、3学期から校長面接・JSTによる就職希望者への個別面談を行う。
- (3 学 年) ・1・2学年より明確な進路目標を持っているものは、早い段階で進路決定している。本年度は、就職希望の生徒の多くが消極的な姿勢が目立ち、情報収集も受け身でなかなか受験する会社が決まらなかった。その結果、縁故就職・自己開拓(エステ・アパレル)も多かった。早い段階で進路目標を持たせ、自分の進路実現に向けた計画的な活動の指導が必要である。

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
2 生徒を鍛え、健やかな心身と未来を切り拓く力を備えた生徒を育てる。							
生徒が規範意識、協調性を高め、責任ある行動がとれる。	3枚以上の指導票による指導を受けなかった生徒の割合	88%	90%	90%	A	目標を達成したため。	生徒指導
	遅刻指導(月3回:保護者連絡、反省文、課題学習)を受けなかった生徒の割合	88%	90%	91.2%	A	目標を達成したため。	生徒指導
生徒が自律的な態度を身に付け、生活習慣を確立している。	1年間の精勤、(3年間の皆勤)を達成した割合	11% (5%)	15% (8%)	15% (8%)	A	・28名の生徒が精勤である(1学年:21%) ・12名の生徒が精勤である。(2学年:8%) ・10名の生徒が皆勤賞、22名の生徒が精勤賞である。(3学年精勤17%,皆勤8%)	各学年
	部活動の加入率(定着率)	65% (73%)	75% (78%)	65.9% (101.8%)	B	加入率は目標値を下回ったが、定着率が目標値を上回ったため。	生徒指導

#### 【評価結果の分析】

- (生徒指導) ・指導票3枚以上の指導を受けた生徒は、昨年度よりも2%減少した。ただし、同じ生徒が繰り返し指導を受けるという状況は変わっていない。指導の内容は、大半が授業規律・服装違反である。指導票をどのような場面で使用するか、教職員によって差があるので、意識統一が必要である。
- ・昨年度までは、月に3回以上の遅刻で指導していたが、今年度は遅刻をしたその日の内に学年会が指導をするように変更した。上記「評価指標」については、昨年までの数値と比較できるように、「月3回以上」を用いた。月に3回以上指導を受けた生徒は、昨年度よりも3%減少した。遅刻総数も、前年度より約16%減少した。ただし、同じ生徒が繰り返し指導を受けるという状況は変わっていない。
- ・加入率は昨年とほとんど変わらず、目標値を下回った。1年生の加入率が84%と高かったものの、2年生の加入率が低いので、全体の加入率は昨年と変わらなかった。今年度は、退部者数よりも途中で入部する生徒のほうが多かったため、定着率は100%を超えている。
- (1 学年) ・各HR、新入生オリエンテーション、学年集会において、基本的な生活習慣を身につけることの大切さを伝えてきた。また、朝の10分学習を1年間計画的に実施した。さらに、無断遅刻者への放課後指導を学年会全体で計画的に取り組んだ。その結果、現時点で精勤賞候補者が28名いる。
- (2 学年) ・担任を中心としてホームルームや集会において、進路実現のために基本的な生活習慣を継続することの大切さを伝え続けている。しかし、精勤については1月末時点で目標値を達成できなかった。また、昨年度に引き続き遅刻が多いのも学年の大きな課題である。
- (3 学年) ・在籍133名中、1年間の精勤賞が22名、うち3年間の皆勤が10名である。3年間の皆勤の生徒の割合が例年より多く、今年度の目標値を達成することができている。欠席・遅刻をする生徒は固定化されているが、毎日の遅刻反省文指導の結果、無断欠席・遅刻は激減した。

#### 【今後の改善方策】

- (生徒指導) ・生徒の規範意識を向上させるために、集会や「生徒指導だより」など様々な機会を通して、生徒指導規程の内容を伝え、それを守ることの大切さを理解させる必要がある。また、教職員が共通認識を持って生徒の指導に当たることができるように、指導票を活用しての指導など、事例を基にした教職員研修を実施していく。
- ・今年度は、学年会において遅刻した生徒に指導する体制に変えた。一定の効果は見られたものの、まだ遅刻者の数が多いとい

う実態があるので、今年度の体制を継続して、指導を繰り返し受ける生徒については、家庭とも密に連携を取り、規則正しい生活習慣を身に付けさせる。

・部活動の加入率を上げるため、特に年度当初の新入生に対する勧誘を充実させる。また、部活動での生徒の活躍を、運動会や文化祭など様々な方法で、地域・家庭に発信していく。

- (1 学 年) ・精勤を継続している生徒が例年以上に多い、一方で遅刻を繰り返す生徒が固定化してきている。基本的な生活習慣の確立と基礎学力の充実のために、授業規律の確保と遅刻指導・服装指導等を学年会全体で継続していく。
- (2 学 年) ・精勤し努力を重ねる生徒がいる一方で、遅刻を繰り返すなど生活習慣に課題がある生徒が固定化しており、担任を中心に保護者連携を密にして粘り強く指導を行っている。指導により改善をしつつある生徒もいるが、まだまだ課題が多い。進路決定へ向けた取り組みの中で目標を持たせ、生活習慣の確立が重要であることを認識させていく。
- (3 学 年) ・精勤・皆勤の生徒の努力を誉め称えとともに、遅刻を繰り返す生徒に対し、規則正しい生活リズムを確立することが卒業後 生活でもすべての基本となることを粘り強く伝えていく。

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
3 保護者、地域に信頼される活力ある学校をつくる。							
質の高い情報発信による地域との積極的な連携	「東高便り」の発行およびHP更新で地域に配信した回数	38回	40回	40回	A	東高便りは予定通り発行した。HP更新は目標値を達成した。	総務
	ボランティア活動の参加延べ人数	390人	400人	416人	A	校内外清掃ボランティア活動(のべ269人) ひろしま総文祭運営要員(59人) 三原城かいぼり隊活動(17人) マイロード花植え活動(21人) 和久原川清掃活動(50人)	生徒指導 総務

【評価結果の分析】

(総務) ・「東高便り」は計画通り年8回発行できている。また、HP更新については、3月に40回達成した。校内外美化活動については計画通り5回、校外清掃ボランティア活動も2回実施した。声かけをすると協力的な生徒・部活動が多いが、その他の生徒にも積極的に参加を促していかなければいけない。

(生徒指導) ・マイロード花植え、和久原川清掃活動ともに地域の方々と一緒に活動しており、生徒の姿を見てもらう貴重な場となっている。  
・マイロード花植えについては、人数が多いとやること無い生徒が増えるということで、今年度は人数を絞って参加した。

【今後の改善方策】

(総務) ・今後もHP更新については、行事ごとに更新して、迅速な情報発信を行う。校内外清掃ボランティア活動については、整美委員会を中心に声かけを行い、参加者の増加を図る。また、清掃態度や方法について改善策を練る。校内花壇の手入れも計画的に進めていく。

(生徒指導) ・参加者が部活動加入生徒に偏る傾向が続いているが、今年度は生徒会執行部による声掛けもして、一般の生徒にも参加者を広げているところである。今後もこうした取組で、多くの生徒にボランティアの輪を広げたい。また、地域・行政・企業などと連携をして、活動の場を広げる取組も必要である。

## 平成28年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	8	学校名	広島県立三原東高等学校	校長氏名	波多野 徹	<input checked="" type="checkbox"/> 全・定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	---	-----	-------------	------	-------	---	---

## 1 評価結果の分析

## (1) 成果

- ・「主体的・能動的な学びを促す授業づくり」をテーマに、公開研究授業や互見授業を行い、教員の指導力向上を図った。授業改善に取り組んだ結果、広島県学力調査で「授業が分かる」と答えた生徒が、国語では、77.7%と高く、数学では45.1%から55.3%、英語では45.4%から51.6%にそれぞれ大幅に改善された。
- ・担任会で JST(ジョブサポートティーチャー)によるきめ細かな担任へのアドバイスや生徒への面接及び求人票の提示により、生徒も意欲的に採用試験に取組み17名が合格した。
- ・1学年、2学年の「総合的な学習の時間」で、「職業・学問研究」「企業見学(JFE・エフピコ)」「インターンシップ・看護体験」「課題研究(魅力的な三原市にするには)」等の活動や担任面接などを通して、進路意識を高めることができた。3学年では、早い時期から積極的に進路説明会やオープンキャンパスに参加し、AO入試・推薦入試などを利用して進路実現をすることができた。
- ・各学年で遅刻指導をその日に指導するようにしたため、月に3回以上指導を受けた生徒は、昨年度よりも3%減少した。遅刻総数も、前年度より約16%減少した。指導票3枚以上の指導を受けた生徒は、昨年度よりも2%減少した。
- ・「東高便り」は計画通り発行できた。また、HP 更新については、40回の更新ができた。校内外美化活動については計画通りできた。校外清掃ボランティア活動も2回実施した。ボランティア活動に、協力的な生徒や部活が多い。

## (2) 課題

- ・「国語、数学、英語の勉強が好き」と答えた生徒が、それぞれ50.4%、36.1%、34.2%である。学ぶことが楽しいという実感を持てるような授業を作っていくこと必要である。
- ・担任会において生徒の希望を把握し、指定校推薦の利用などより積極的な進路指導ができたが、最後まで進路を決められない生徒が10名いた。
- ・指導の大半が授業規律・服装違反で、同じ生徒が繰り返し指導を受ける状況がある。指導票をどのような場面で使用するか、教職員によって差があるので、意識統一が必要である。

## 2 今後の改善方策

- ・生徒の学力・学ぶ意欲を向上させるため、「アクティブラーニング」を取り入れた授業について研究テーマを検討し、1年を通して全教員で主体的・能動的な授業に取り組む。
- ・進路目標が決まる時期が早いほど希望の進路実現に繋がっているため、1・2学年のガイダンスを充実させ、校外のガイダンスも利用しながら、オープンキャンパスや公開講座などへの参加を促し、高い進路目標にチャレンジする生徒を増やす。推薦入試の対策として小論文指導・面接指導を計画的に実施する。
- ・毎年就職希望者が約20名いるので、キャリア教育の充実が必要である。企業訪問・求人開拓で企業との連携を密にし、求人を増やす取り組みをする。
- ・3学年での指導を円滑に進めるために、2学年の3学期から校長面接・JSTによる就職希望者への個別面談を行う。
- ・集会や「生徒指導だより」など様々な機会を通して、生徒指導規程の内容を伝え、それを守ることの大切さを理解させ、生徒の規範意識を向上させる。教職員が共通認識を持って生徒の指導に当たることができるよう、指導票の活用について教職員研修を実施していく。
- ・部活動の加入率を上げるため、年度当初の新生徒に対する勧誘を充実させる。部活動での生徒の活躍を、運動会や文化祭など様々な方法で、地域・家庭に伝えていく。
- ・HP 更新については、行事ごとに更新して、迅速な情報発信をする。
- ・校内美化について、清掃態度や方法について改善策を考え、花壇の手入れも計画的に進めていく。

## 3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策

- ・遅刻者の固定化や基礎学力の向上など課題はあるが、目標達成に向け、本校の取り組みは適切にされていると評価されている。

- ・ボランティア活動の評価方法について、参加人数だけの評価ではなく、他の評価も考えられると意見をいただいたので、評価方法の検討をしていく。また、地域に出て、ボランティア活動をしていても東校の生徒が頑張っている姿が見えにくいので、アピールできるような工夫をしていく。
- ・自治会と一緒に活動をするときに、怪我などの心配があるので自治会に連絡があれば、良かったという意見もあった。地域との連携を工夫することにより東高校の取組みの理解が深まり、生徒の評価にもつながっていく。
- ・部活動を活性化や進路実現のために学力向上に期待をする意見もあるので、部活動の加入の促進や授業方法や補習を含め学力向上を図っていく。
- ・学校に対する評価、生徒のマナーや態度も向上していると評価があがっている。生徒が地域で活動できるような機会を作ったり、広報活動を充実させて、学校の良さを広める取組みを進めていく。

### 平成28年度学校関係者評価シート(年度末評価)

平成29年3月1日

校番	8	学校名	広島県立三原東高等学校	校長氏名	波多野 徹	<input checked="" type="checkbox"/> 全・定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	---	-----	-------------	------	-------	---	---

評価項目	評価	理由・意見
目標, 指標, 計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定は, 1, 2, 3適切である。</li> <li>・目標, 指標, 計画ともに適正である。</li> <li>・卒業後, 求められる人材育成を具体的に生徒・保護者に提示し, より目標を明確にする。</li> </ul>
目標の達成状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価も実際を見ている。</li> <li>・指標, 目標に対する評価は適正である。</li> </ul>
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現実を見ての取組み評価できる。</li> <li>・達成に向けた取組みとその評価は適正である。</li> <li>・授業参観や学校行事に参加し, 生徒の意欲的な態度が見られる。特に部活に参加している生徒が良い。</li> <li>・ボランティア活動の参加人数で評価するのではなく, 高校の必要とされる適切な人数での参加が必要である。また, 同じメンバーが参加しているのではないかと疑問があります。地域と密着した参加を今後取組んで欲しい。</li> </ul>
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席や遅刻をする生徒が固定化され, その他は激減しているとの事ですが, 固定化している生徒の進路及び他の生徒への影響が心配です。できるだけきめこまかな対応をお願いします。</li> <li>・分析も適切である。</li> <li>・評価の分析も適正である。</li> <li>・わかりやすく, まとめられている。</li> </ul>
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善の方策も適正である。</li> <li>・社会貢献・地域貢献や主体的な学習など規範意識をともに育てて欲しいので, 適切である。</li> <li>・基礎学力向上のための取組みに期待したい。できれば, 進路に適応した補習だけでなく, 基礎学力向上に向けた補習もお願いしたい。全体の学力向上及び楽しくなる勉強の仕方などを教えていただきたいです。</li> <li>・適切に取組み評価されているのだから, 改善策がもっと見つかるはずです。</li> </ul>
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体が向上していることは, 評価できます。この良くなっていることをもっと広くアピールする広報活動も大切だと思います。また, 取組む内容の質を生徒とともに考え向上させて東高校を盛り上げていっていただきたいです。</li> <li>・努力されている事に評価します。</li> <li>・生徒のマナーや態度も向上しています。地域での評判も良くなっています。努力の跡が見られます。</li> <li>・良い方向に進んでいると思うので, 続けて欲しい。</li> </ul>